NO.2
2022年12月

# 長野反核医療者の会 会報

目次

川崎哲氏講演会　報告
広島フィールドワーク　感想
パンフレット完成のお知らせ

## 核兵器禁止条約 第1回締約国会議

６月21～23日オーストリアの首都ウィーンで開かれた。日本の市民社会からも被爆者や被爆2世3世などが多数参加。被爆証言や各国政府要請など、関連行事も開催された。同会議には条約に批准した65の締約国の他、NATO加盟国のドイツ・ノルウェー・オランダを含む34カ国がオブザーバー参加。しかし日本政府は被爆者や市民社会の粘り強い求めにもかかわらず参加しなかった。会議では核兵器の非人道性を再確認し、核抑止論を厳しく批判。条約への参加促進や核兵器の被害者支援など、条約履行への具体的方策を示した「ウィーン宣言」と「ウィーン行動計画」を採択して閉会した。

## NPT再検討会議

8月1～26日、ニューヨークにある国連本部で開催された。最終文書案はロシアの反対により採択に至らなかった。最終文書案を採択できなかったのは前回2015年に続いて2回連続。ICANのベアトリス・フィン事務局長は、米英仏中露の核保有国５カ国が核軍縮の義務に背を向けて最終文書案を弱体化させたとし、「危険な国際状況のなかで責任を放棄する姿勢だ」と非難。「NPTを補完する禁止条約がますます重要になってきている」と述べた。

## 9/23 川崎哲氏講演会

2022年9月23日に「動き始めた核兵器禁止条約」と題して、ICANの川崎哲さんにご講演いただきました。川崎さんは、事務局メンバーの光武、春日が2018年に雑誌の企画で対談もしており、若い世代や医療者の活動を応援してくださっています。そのため「長野反核医療者の会を結成した暁には、ぜひ川崎さんに講演いただきたい！」と事務局内で考えていました。4月の結成総会の開催準備と同時並行で5ヶ月前から準備を行い、この間の核兵器禁止条約締約国会議やNPT再検討会議の国際情勢も相まって、講演会当日を大変楽しみにしていました。

ご講演では核兵器禁止条約発効までの経緯から始まり、締約国会議についても報告いただきました。各国の市民団体や日本の若い世代が活き活きと発言していた様子が共有されました。一方で、会議の冒頭発言は日本の戦争被爆者ではなく、カザフスタンの核実験被爆者からなされたことについて、日本政府がオブザーバー参加すらしなかった責任が世界から問われていると指摘されました。またNPT再検討会議では、ICANを代表して18歳のウクライナ女性が核兵器の存在の脅威について発言されたそうです。川崎さんは「核兵器は使用されなくても、存在し威嚇に使われるだけで人々が傷つき殺されている。核抑止論が成り立たないことを証明している」と指摘されました。また「2023年のG7広島サミットを前に、今後は核抑止論を否定する議論が重要になる」という核廃絶を実現するプロセスに関しても提案がなされました。

当日は会場に19名、オンラインで41名の合計60名の方に参加いただきました。講演後に会場では小グループに分かれ、川崎さんも交えて感想交流を行いました。川崎さんに直接質問もでき、コロナ禍において久しぶりの対面交流は大変盛り上がりました。参加者からは「核兵器を使用するしないに関わらず、命の危険にあることを思い知った」「日本や世界で核廃絶の圧力を高められるように、学習や行動を積み重ねたい」といった感想をいただきました。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。皆さまからもお話をお聞きしたい講師候補がありましたらぜひ事務局までお寄せください。

# 9/18 広島ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ感想

反核医師の会学生部会の企画で広島にフィールドワークに行きました。戦時中に毒ガス兵器を作っていた大久野島に行く予定でしたが、台風が近づいていたため急遽予定を変更して原爆ドーム近くをまわりました。

原爆ドーム前で胎内被爆者の三登浩成さんのお話をお聞きしたり、平和記念資料館を見学したり、カクワカ広島共同代表の田中美穂さんとお会いしたりしました。参加者の感想をお読みください！

・10年ぶりの広島でした。限られた時間ではありましたが、胎内被爆者として16年間語り部をされている三登さんのお話を聞くことができました。
・原爆ドームの周りをたくさんの赤とんぼが飛んでいて、戦争の犠牲となった方々の生まれ変わりだろうと直感しました。平和への思いを新たにするのに、訪れるだけでも価値のある場所だと思います。
・慰霊碑に刻まれた「安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませぬから」の文字を見て、身震いがしました。直接戦争をはじめるのは自分でなくても、それを見て見ぬふりをしていては同罪だと思います。平和を、憲法を守っていくのは自分たちの不断の努力があってこそだと、戦後を生きる者としての責任を感じました。

＜三登さんのお話から＞
・三登さんはたびたび「広島は自民党が強いから」「右翼が隠蔽しようとして」といったことを話されており、外国からの訪問者から「そんなこと言って大丈夫なんですか？」と心配されることがあるとおっしゃっていました。言論の自由は守っていかねばと思いました。
・外国人のほうが「解決したい自分なりの疑問」をもって資料館を訪れる印象があるそうです。疑問の多くは資料館展示で解決せず、三登さんの手作りのQ&Aファイルを読まれるとのことです(現在8カ国語に翻訳済み)。
・外国の方は、NUCLEAR WEAPON/POWER を並列で考え、原発についても質問してくるそうです。日本では極端なところでは「被爆者は原発を語るな」といった論調さえあるそうです。
・「心穏やかに展示を見てもらうようにした結果の“隠蔽”」。過去をどう捉えどう生かすか、どの立場から物事を考えるか、人それぞれだと思いますが、個人的には加害・被害の歴史を可能な限り包み隠すことなく伝え続けることが、戦争の犠牲者にとっての最大の弔いではないかと思います。
・爆心地の正確な場所とその推定根拠についても教えてもらいました。原爆の熱により瞬間的に溶けた瓦や墓石に触れ、その威力を感じました。

## 長野反核医療者の会 パンフレット完成！⇨⇨⇨

### 胎内被爆者

1945年原爆投下時に母親の胎内で被爆した人のことで、「被爆者健康手帳」が交付される。最も若い被爆者と言われている。
胎内被爆者の三登さんは、毎日原爆ドーム前に立って証言活動をされている。

### カクワカ広島

正式名称は、“核政策を知りたい広島若者有権者の会”。
被爆者であり反核活動家のサーロー節子さんが2019年に広島で講演された時に「『核廃絶に向けて頑張ってください』、『世界が平和になるよう祈っています』と言われるよりも、『一緒に頑張ろうと言ってほしい、一人ひとりが具体的に行動を』」という言葉に衝撃を受けたことをきっかけに2019年1月結成。高校生、大学生、会社員、カフェ店主など様々な立場の若者が集まり、広島市中区のブックカフェ「ハチドリ舎」を拠点に活動している。
広島選出の国会議員に核兵器禁止条約に対する考えを聞き、その意見をSNSや報告会で発信している。ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）パートナー。

長野反核医療者の会のパンフレットが完成しました。宣伝や入会のお誘いなど、大いにご活用ください！
事務局までご連絡いただければ郵送します。